



京都府南部地域視覚支援 親子交流会 報告

日 時 平成30年7月31日(火) 9:30~12:00
場 所 京都府スーパーサポートセンター
テ ー マ 児童生徒:「視覚障害者スポーツを体験しよう」
保護者:「見えにくさのある子の子育てについて」
講 師 京都府立盲学校 教諭 長谷部 光二先生

今年度も、京都府南部地域に居住する見えにくさのある児童生徒及びその保護者、兄弟姉妹を対象にして、交流会を開きました。当日は、児童生徒と兄弟姉妹を合わせて6名、保護者5名の計11名に参加していただきました。講師には、盲学校教諭の長谷部先生をお招きして、児童生徒向けのブラインドサッカーの指導をしていただき、保護者向けには視覚障害のある当事者としてのお話を伺いました。

児童生徒のみなさんは、最初は緊張して表情も硬かったですが、友達にパスをしたり、声をかけたりする中で、表情がイキイキとなり、ブラインドサッカーを楽しむことができました。アイマスクをつけてボールを蹴りあう体験をとおして、見ることでなく音を聞いて判断し、体を動かすスポーツの楽しさを感じることができました。

保護者交流会では、小学生、中学生、高校生とそれぞれの段階の子どもさんがおられる保護者の方々が参加されていたため、小・中学生時代に感じる親の悩みに、先輩保護者の方が御自分の経験をもとに答えるなど、保護者同士での交流が進みました。また、当事者である長谷部先生のお話では、進路等の悩みに直面した時に、子ども自身が自分で意欲をもって努力をしていく大切さや、子どもを信じて支える親の姿勢が大切であることが分かりました。

日頃交流する機会が限られている視覚障害のある児童生徒同士、その保護者の方々が集まることができ、温かいつながりを感じられた交流会となりました。



【参加者の感想】 抜粋

いろいろな方のお話が聞けて、とても参考になりました。本人にも自分の好きな事、なりたいものを早く見つけて、頑張れる子になって欲しいと思いました。(保護者)

小さいお子さんのお母様の悩みは、私もそうだったなぁと共感しましたし、盲学校の先生のお話は、本人の将来を考える上で、とても参考になりました。(保護者)

しかくしょうがいの人でも、ふつうの人でも、みんなのできるスポーツがあっという間と思った。(児童生徒)

視覚障害の人でも、楽しくスポーツができると改めて感じた。(児童生徒)

見えない世界でサッカーをして、見えない人でもこんなことをしているんだと思った。(兄弟姉妹)